

COM待夢

60号紙
2014年12月20日



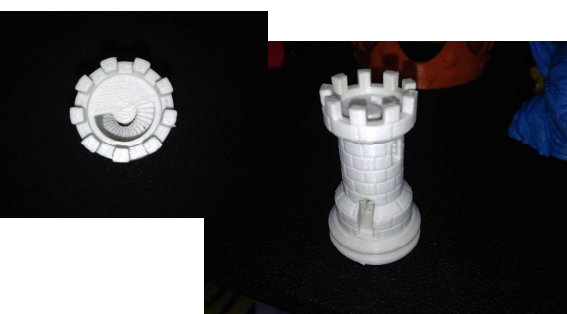
朝晩の冷え込みが一段と厳しく、最低気温も氷点下近くまで下がり、雪もちらちら舞う日もありました。とても寒い日が続きますが、一年の締めまでともう一踏ん張り。なんとか気力で頑張りましょう。

さて今月はいよいよ最後、先月お休みしておりました「3Dプリンター 其の三」編をお楽しみ下さい。

3Dプリンター 其の三



9月号から紹介してました「3Dプリンター」編ですが今後の展望と我が社及びプレート業界、工作機械との関係について説明し、ひとまず最後となります。

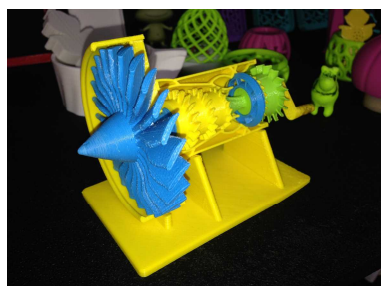


上の写真は樹脂で製作したチエスの駒で、真上から見ると内部が螺旋階段になっています。このように内部に空間のある形状の場合、切削加工では工具干渉の問題があります。が、「3Dプリンター」だといとも簡単に製作が出来てしまいます。とても便利です。そして身の回りにも様々な工業製品の多く（特に樹脂製品）は金型を元に生産されており、我々も製造業の中のプレート業界に携わり仕事をして生活しています。

しかし「3Dプリンター」という便利なものがある世の中に普及してしまつては金型がいらなくなるのでは？といった疑問も出てきます。近年、アメリカを軸として一つのブームになっていきますが、品質、コスト、量産の観点から金型がこの世から無くなっていくということではありません。なぜなら現状では高品質な機械は数千万〜一億円以上もし、研究所など特定の機関にしかありませんし、なにより射出成形機などの生産速度に到底及ぶものでもありません。



量産品ではなく試作品やモデルを早く手軽に製作できる点が最も優れた点であり、まして金型そのものに取って代わろうというものでもないのです。とはいえ、やはり金型無しで複雑な形状が製作できることは、将来的には脅威になりえる可能性を秘めているといえるでしょう。



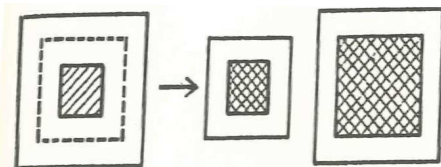
先月行われたJIMT OFでも複合旋盤と金属3Dプリンターをドッキングした機械が展示されていたように今後はこういった付加価値の高い機械が工作機械業界を席卷していくことが予想されます。切削と積層、本来であれば相反する技術ですが、互いの良いところ取りをして、また新たな機械技術が生まれていくのでしょね。今後もまだまだ「3Dプリンター」から目が離せません。

Brain タイツウ

11月号の答え

下図のように、額の縁の中央を通る線で、二つの部分に切り離せばよい。

◎正解者 0名



問題

ある工員が、誤って額縁を、左図のように切り離し、それぞれの木片に、別々の色を塗ってしまった。これから、前問のように、最初と同じ、小さな正方形の絵と、その四倍の面積をもつ正方形の絵を入れる、二つの額縁を作りたい。それぞれ、違つ色の木片を交えずに作るにはどうするか。

今年度上位入賞者発表



- 1位 C社のメンテさん
- 2位 ゲーム好きN山さん

